

第6回網走市選択する未来会議発言要旨（平成29年6月28日（水））

●事務局

（別添資料1に基づきKPI達成状況（前回未報告分）について説明。

○委員

- ・企業誘致件数が28年度1件となっているが、どのようなカテゴリの企業か。雇用数が増えていないのはなぜか。

●事務局

- ・車の電子部品などを製造しているNGKオホーツクである。呼人の国道沿いに建っている工場の後ろ側に同規模の工場を建設しているところ。既に立地している企業であるが、工場の増設であるので1件とカウントしている。
- ・今回の29年3月時点のKPIには反映されていないが、現在、能取工業団地において、バイオマス発電所の計画があり、4月以降に市とウィンドスマイル社の契約が済み、工事に着手しているところ。29年度は1件確実に計上できる。

○委員

- ・現状では雇用は生じていないけれども、工場が稼働すれば雇用が増える可能性はあるということ。

○委員

- ・去年の宿泊者数の減少は、やはり台風の影響が大きかったのか。

●事務局

- ・台風の影響がどうだったかという把握はなかなか難しいが、石北線が運休したことで、JRの8～9月の利用者数が前年に比べると1割の減少で3万3千人ほど利用が減った。バスや航空機を利用された可能性はあるが、その分が影響しているというふうに考えている。

○委員

- ・新幹線開業の影響で、逆に函館止まりとなったことも要因として考えられるのではないか。

○オブザーバー

- ・合宿参加人数の網走はスポーツの合宿地として有名だと思うが、網走が文化の合宿地というのはあまり聞いたことがない。具体的にどのような部活動が来ているのか。

●事務局

- ・おっしゃるとおりスポーツ合宿はかなり定着して人数も増え、市民にも浸透しているが、文化の合宿についても誘致しようということで、3年ほど前から取組を進めている。具体的に多いのは吹奏楽部で、近年では旭川商業高校のブラスバンドが合宿後に市内で演奏会

するなどの活動をしている。参加人数が減っているのは一昨年いらした名寄市立大学の吹奏楽部が昨年はいらっしゃらなかったためである。徐々に増やしていきたいと考えている。

○オブザーバー

- ・網走は有名な音楽家がいらっしゃって演奏されたり、そういう文化活動を積極的に行っているのも、そういうことをもっと広めていけたら良いのかなと思う。

○委員

- ・私が網走市芸術文化合宿実行委員会の委員長をやっている。最初に行ったのは書道で、東京網走会の書道家が合宿を行ったのが第1回目。
- ・スポーツ合宿は実施できる期間が大体4月から9月に限られるが、芸術文化は1年中できるので、それを一つの大きな柱にしようと動いている。合宿に来ている団体は道内が多く、本州から合宿に来てもらえれば、網走の魅力を発信できると考えている。
- ・芸術文化は書道、吹奏楽、写真、水彩画、料理などいろいろあり可能性がある。網走で、写真甲子園のような「何とか甲子園」の企画をやりたいがなかなか予算が見つからない。高校生にも応援してほしいと思っている。

○委員

- ・障がい者雇用の促進について、就労者の報告がなかなか把握できないという話があったが、何か良い方法はないか。電話では本音が出ないのではないかな。もう少し実態に迫れるアプローチやどういう形で支援ができるのか、福祉の立場からも難しい点があると感じているので、皆さんの意見があればお聞きしたい。

●事務局

- ・労働実態調査として事業者にアンケート調査を実施しているが、回答いただけないと把握できない状況。ハローワークで把握している数値はオホーツク管内全体の情報で網走の実態を捉えていない。
- ・社会福祉の担当部署で普段の業務を通じて蓄積した情報をもとに電話をかけるなどして、まずは実態を把握していきたいと考えている。

○委員

- ・個人情報の取り扱いは大変厳しくなっており、事業所でも情報を出しづらいこともあるので、いろいろな方法を考えてよろしくお願ひしたい。

○委員

- ・いろいろ難しいところはあるが、実態とそれに合わせた支援対策を考える必要がある。

○オブザーバー

- ・28年度の現状の数値と31年度の目標値を見て、達成するにはかなり無理があると思われる項目がいくつかある。例えば、中心市街地の通行者数は倍以上伸ばさなければならない

し、観光客数もハードルが高い。それぞれ目標値を達成するために何か新たな施策を打つとか、そういった考えがあれば教えていただきたい。

●事務局

- ・総合戦略の中で方向性は決まっているので現状を踏まえながら、市長を筆頭に各部長が意見交換をしながら、平成 30 年度の予算編成に向けて何ができるか議論し、予算をつける作業に入っていく。
- ・おっしゃるとおり達成が困難な数字もある。目標数値は設定する際にいろいろ議論があったが、簡単に達成できるものではないし、大きく目標を持とうと設定されたもの。達成に時間がかかるものもあるが、目標に向けて施策を進めていきたいと考えている。

●事務局

- ・K P I については、目標より高い数値に到達した場合は、なぜ目標を超える成果が出たのかの分析、目標に届かない場合は、なぜ達成できなかったのかという分析が求められる。その時々状況を把握しなければならない。
- ・28 年度は総合戦略を策定してから最初の予算事業が始まった年であり種をまいている状況というところもある。達成が難しいからと 31 年度の目標値を下げるのではなく、目標に向かって 30 年度 31 年度の事業でどうリカバリしていくのかを考えていきたい。

●議長

- ・右肩上がりの社会ではなくなっている、厳しいところもあると思うが、努力が必要。皆さんの意見を聞きながら、政策的にも見直しが出てくると思うので、いろいろと尽力いただきたい。

○委員

- ・28 年度の実績と 31 年度の目標の数字に乖離があるものが多いのではない。例えば、長いもの輸出量や金額、外国人の宿泊客数などは、目標値まで持っていける傾向にあるのか。いろいろな要素があると思うが、これからどういうふうにして目標を達成していくのか、具体策が出てもいいのではないと思う。

●事務局

- ・長いもの輸出については、28 年度は台風の影響で生産が落ちたことと、国内の需要が高い時は国内に回すという事情があり、輸出は伸びなかった。また、目標については、元々長いもの輸出をしていなかった中で 26 年度に 2 億円という実績が出たので順調にいけば 31 年度 4 億円というのは達成困難な目標ではなかったが、外国相手だと特殊な事情や、突然相手国の意向が変わることがある。
- ・外国人の宿泊数は、網走の観光客数の中では割合は少ないが、過去最高を毎年更新している状況なので、目標に向けて何とか増やしていきたい。最近、札幌圏ではホテルがなかなか取れない状況であり、観光客が集中している札幌圏から道東に足を運んでいただくためにプロモーションをかけているところ。

○委員

- ・農産物の輸出は、植物防疫上の制限で法律が変わったりすると、動きがストップしてしまう。長いものは中華圏で需要があるので、ロットは大きいわけではないが、販路が拡大していく可能性はある。しかし、国内で最高値を付けている東藻琴産の長いものをわざわざ外国に輸出する必要があるのかどうかという判断もあるのではないかな。

●事務局

- ・外国人宿泊客数の関係では、現在、空港民営化の取組が始まっており、それに伴って格安航空ＬＣＣの就航についての議論も始まっている。新千歳空港から道東に観光客を誘導するには、航空運賃が高いことが最大のネックであるので、そこがクリアできると人の流れはかなり変わると考えている。

○委員

- ・観光客の宿泊客数の数字について、最近、Ｂ＆Ｂ（民泊）を知人がやっており、かなり利用があるようだ。そういった取組を支援している自治体もあるが、市ではそういった計画があるのかどうか。また、Ｂ＆Ｂの利用者数は微々たるものであっても伸びているようであるが、実態把握はされているのか。

●事務局

- ・宿泊者数の数値は、旅館やホテルなどの届出がある宿泊施設への宿泊者数の合計である。都市部では規制緩和などで民泊に取り組んでいるところもあるが、網走の場合は、ホテルが満室でさらに宿泊施設を確保しなければならないという状況にはないので、市としては旅館業法の許可を得ている施設の利用を増やすという方向で考えている。いわゆる民泊について具体的に取組を進める考えは持っていない。

○委員

- ・民泊は重要な話であると思う。観光客の裾野を広げていくという意味で、今までとは別な階層の方々がやってくる可能性がある。ただそれは、宿泊施設とは住み分けをしていかなければならないことだと思う。市の方でも、少しデータを取りながら整理をしていただければ新しい動きにも繋がっていくのではないかな。
- ・市長はＬＣＣ誘致を一生懸命やっているが、これは学生をオホーツクに連れてくる場合にも非常に重要である。インターンシップで学生を東京から網走市・大空町に連れて来るという取組も１６名しか担保できないのは航空運賃が高いため、ＬＣＣがあればもっとたくさんの学生をオホーツクに連れてくることのできるのだから期待している。

○委員

- ・私も実績と目標値との乖離が気になる。逆に、空き家バンクのように既に目標を上回っているものも目標値を上乗せするのではなく、目標は目標として、増える分には増やしていくということか。

●事務局

- ・目標を作った時にも根拠があるので、その根拠と実態がなぜ乖離したのかという理由の分析が重要になってくる。

○委員

- ・宿泊客数の目標値の設定は施設のキャパシティから算出しているのか。最大でこれだけ宿泊できる、施設が満床だとこの数値になるということか。

●事務局

- ・満床になったら達成できる数値として設定したものではない。基準値が35万9千人で、31年度には延べ人数で50万台に乗せるという大きな目標として設定したもの。

○委員

- ・観光客の動態は、単に数字だけで追いかけるのではなく、おもてなしやホスピタリティ、食の普及、いろいろな重要な要素がある。

○委員

- ・東農大に道内からなかなか入学者がいない。卒業者の市内就職者数も低い。項目を絞りすぎたのではないか。

○委員

- ・農大生が網走に定着するのは、卒業生全体の0.2～0.3%くらいの数字である。農大生に地域に愛着を持ってもらう、共感してもらうようないろいろな仕組みを作らないと数字は上がらないと思う。
- ・市役所にも東農大卒業者は多い。

○委員

- ・網走信金も東農大卒業者は多い。地元高校、大学卒業者を積極的に採用している。

●議長

- ・お時間となりました。数字も増減があったが、背景や政策実現性が大事であると思っています。数字だけではない部分にも関心を持っていただきたいと思う。
- ・次回会議は、未定であるが3月頃の予定。

～第6回選択する未来会議終了～